

住人十色

第123回

住民の命を守るため、鍛え抜いた技術 「全国消防救助技術大会」で入賞

辻 俊介さん(27) 内子18第2



◎「災害はいつ発生するか分からない。もしもの時の備えをして、不安要素を少しでも減らしてほしい」と呼び掛ける辻さん。

消防隊員が日頃鍛えた救助技術を披露する「第48回全国消防救助技術大会」(一財)全国消防協会主催)が8月25日、岡山県岡山市で開催されました。大洲地区広域消防事務組合(以下、大洲消防)の消防士、辻俊介さんは「ロープブリッジ渡過」に出場。見事、大洲消防で6年ぶりとなる全国入賞を果たしました。

25年度から同種目に挑戦しているそうで、「訓練を始めた頃は、ラスト5メートルで力尽きていた。身動きが取れない状態で、宙ぶりになる悔しさも味わった」と振り返ります。「本番は少しのミスも許されない一発勝負。独特の緊張感の中でも力を発揮できたのは、先輩のアドバイスやサポートをしてくれた皆さんのおかげ」と感謝の思いが募ります。

小学生の頃からの夢をかなえて、消防士になった辻さんは「中学、高校時代は大洲消防で職場体験をして、命を守る仕事を肌で感じた。ロープブリッジ渡過は基礎訓練だけど、応用することでさまざまな救助現場で生きてくる。それで救える命があるかもしれない」と力を込めます。最後に辻さんは「住民の安全・安心のために、これからも訓練を重ねて、どんな現場でも動じない強さを身に付けた」と思いを語りました。

※訓練塔の間に張られた20mのロープを往路はセーラー、復路はモンキーという方法で往復する。ロープ渡過の基本的な訓練

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130



編集 幸記

▽10月号の取材で御祓地区にたくさん足を運びました。みそぎの里に泉谷の棚田、紅葉ヶ滝の滝行。地域の魅力を存分に感じる1カ月でした。特にみそぎの里の「季節の定食」は最高。モロッコ豆やミョウガの天ぷら、おいしかったなあ(裕)▽子どもたちにとって消防士は正義のヒーロー。私も消防士や自衛隊員のような、カッコいい制服を着て命を守るために働く職業に憧れていました。統制の取れた行動に屈強な体、体育会系の血が騒ぎます(航)